新品種候補案（2014 年 1 月作成）

育種事業課題名：ぶどう新品種候補「GHC1」の概要（213130, 213102）
担当部署：中央農試・作物開発部・作物グループ

キーワード：生食用ぶどう、良食味

１．特性一覧表

系統名：「GHC1」　　組合せ：キャンベルアーリー／サフォークレッド
特性：　長所　　１．糖度が高く酸度は低く、食味が優れる。
　　２．無核果で、しいなが極めて小さく食べやすい果実である。
　　短所　　１．裂果が発生しやすい。
普及見込面積：　20ha

調査場所	育成地（中央農試）			現地試験					
				深川市			仁木町		
調査年次	2009～2013 年			2009～2013 年 3)			2009～2010 年		
系統・品種名 / 項目	GHC1	キャンベルアーリー (標準・対照)	デラウェア (比較) 2)	GHC1	キャンベルアーリー (標準・対照)	デラウェア (比較) 2)	GHC1	キャンベルアーリー (標準・対照)	デラウェア (比較) 2)
発芽期（月/日）	5/20	5/20	5/20	5/18	5/17	5/18	5/13	5/12	5/12
満開期（月/日）	7/7	7/4	7/3	7/4	7/3	7/2	7/3	6/30	6/29
収穫期（月/日）	9/23	9/26	9/9	9/13	9/23	9/6	9/20	9/22	9/5
幹周（cm）	19.3	20.6	17.1	13.2	17.7	11.1	8.6	9.8	10.1
樹冠占有面積(m^2)	31.8	33.6	39.8	9.8	25.1	16.7	4.7	6.6	17.4
新梢数（本/株）	64.7	58.9	94.0	13.4	18.2	20.0	7.0	10.0	19.5
積算収量（kg/樹）1)	98.0	154.2	90.0	10.1	26.3	11.5	1.4	5.4	2.2
1 樹当たり果房数	99.3	78.8	125.3	18.5	20.8	33.0	6.0	13.5	27.5
果房長（cm）	14.5	17.4	14.4	12.4	16.1	10.2	12.3	16.2	11.0
果房重（g）	234	402	154	148	310	105	110	195	52
果粒重（g）	3.4	4.9	2.1	3.3	5.7	1.8	3.3	4.8	1.6
糖度（Brix%）	17.1	15.5	18.7	17.0	14.8	18.8	18.3	16.6	20.1
酸度（g/100ml）	0.63	0.79	0.88	0.56	0.81	0.88	0.78	0.97	1.11
糖酸比	28.0	19.6	21.6	30.7	18.2	21.8	24.1	17.6	18.9
含核数	0	2.9	0	0	3.4	0.1	―	―	―
果房形	円筒	円筒	円筒						
果皮の色	青黒	青黒	濃紫赤						
果房の着粒密度	極密	やや密	密						
果粒の形	球形	球形	球形						
肉質	塊状	塊状	塊状						
果実の香り	ﾌｫｸｼｰ	ﾌｫｸｼｰ	無						
種子の有無	痕跡	有	有 4)						
樹勢	中	中	中						
裂果の多少	中	無~極少	少						
耐寒性	中	強	やや強						
花穂整形労力	やや多	少	極少						

表1.「GHC1」苗に対する栽培意欲

回答	植えたい	植えない	無回答	全体
人数	16	9	10	35
割合	45.7%	25.7%	28.6%	100.0%

※ 回答者は、果樹生産者、産地農協の果樹担当職員（2013年）

表2.「GHC1」果実に対する購入意欲

回答	買いたい	買わない	無回答	全体
人数	44	17	4	65
割合	67.7%	26.2%	6.2%	100.0%

※ 回答者は、農試、農改センターの一般職員（2013年）

※３試験地とも 2004 年定植、栽植時１年生、自根苗で試験を行った。
　露地栽培、棚仕立て長梢剪定（片側一本主枝整枝）、冬期間枝下ろし実施。
注 1）調査年次における収量の積算値。　（その他の項目は調査年次の平均値）
注 2）「デラウェア」の生育相・果実品質は、ジベレリン 100ppm ２回処理による無核栽培での値。
注 3）深川市の収穫期および果実品質は 2010～2013 年の平均値。
注 4）「デラウェア」の果実特性としては種子有りだが、通常はジベレリン処理による無核（種子無し）栽培が行われている。

２．特記すべき特徴

「GHC1」は、北海道での露地栽培が可能な生食用ぶどう系統である。収穫期は「キャンベルアーリー」と同時期からやや早い。糖度が高く酸度は低くて食味は良好であり、種子は形成されず、しいなが極めて小さく食べやすい果実である。果房や果粒は「キャンベルアーリー」より小さいが「デラウェア」より大きく、収量性は「キャンベルアーリー」より低いが無核処理栽培の「デラウェア」並である。

３．優良品種に採用しようとする理由

北海道のぶどうは、全国で第５位の栽培面積（1,150ha、2011 年産）であり、道内で最も多く作られている果樹品目である。全国的な生食用ぶどうの品種構成は大粒系や高品質な欧州系が主流であるが、北海道では生育期間の短さや栽培様式の違いなどからこれらの品種の導入が進んでおらず、古くから栽培されている品種が中心となっている。主力品種の「キャンベルアーリー」は酸味が強く種子があるといった理由から販売価格は低迷し、栽培面積は減少を続けている。一方、「デラウェア」や「バッファロー」は種なしで食味が優れることから需要は高く、一定の価格を維持しているが、無核化のためのジベレリン処理を短期間に集中して行わなければならないため、栽培面積の拡大は難しい。このため生産者は「デラウェア」や「バッファロー」などの品種と管理作業が競合しない新たな良食味の品種を求めている。

「GHC1」は、「キャンベルアーリー」に比べ糖度が高く、酸度は低いため食味が優れている。また、種子が形成されないことからジベレリン処理は不要であり、しいなは入るものの大きさが極めて小さく、食べやすい果実である。果粒、果房は「キャンベルアーリー」より小さいものの、「デラウェア」よりやや大きい。収穫期は「キャンベルアーリー」と同時期からやや早いため収穫労力の分散も可能である。果粒が過密着になって裂果する場合があるが、摘粒を行うことで裂果の発生を軽減させることができる。摘粒作業は果粒肥大期から着色期（7 月中旬～8 月下旬ごろ）までに他の作業と並行して行えるため、栽培体系に組み入れることは可能と考えられる。

以上のことから、「GHC1」を「キャンベルアーリー」の一部に置き換えることで、市場出荷だけでなく、観光果樹園や直売所などでの品目の多様化にも貢献し、本道の良食味ぶどうの栽培振興に寄与することができる。

４．普及見込み地帯

本道のぶどう栽培地域

５．栽培上の注意

1) 果粒が過密着になって裂果しやすい特性を有するため、着色期までに摘粒を行って着粒密度を下げるとともに、収穫前にも裂果被害粒を取り除く。
2) 寒害を防ぐため、冬期間の枝下ろしを行う。